

国際交流クラブ6月例会(第1回)実施報告
「今に生きる日本の古武道～外国人師範から教わるその真髄!!!」



6月12日(金)午後6時半から当財団主催の国際交流クラブ第1回交流会を実施しました。今回は、「今に生きる日本の古武道～外国人師範から教わるその真髄!!!」と題して、柳生新影流兵法・柳心会の本部師範で国際本部長のマイケル・コンタス先生をお招きして、日本の古武道の流派のひとつである柳生新影流兵法を通して日本の古武道の魅力についてお話いただきました。今回の参加者は32名で、内訳は各大学の留学生会の留学生等外国人22名、日本人10名でした。実際に古武道について話を聞いてみた

という留学生が、中国、韓国、台湾、インド、ネパール、フィリピン、ベトナム、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、エジプト、ブラジルと様々な国から参加しました。

古武道とは、日本古来の徒手や武具の使用法等を体系化したものの総称で、日本では古代から様々な武術がありましたが、鎌倉・室町・戦国時代に武士の戦術として様々な流派が生み出され、江戸時代に発展しました。明治以降は戦闘の手段ではなく人間形成と心身の鍛錬を目的とする現代武道が生まれ、それぞれ日本の伝統芸能として今に生きています。マイケル・コンタス師範は23年前にアメリカから来日して古武道の魅力に引かれ伝統的古武道である柳生新影流の師範にまでなられた方です。将来はアメリカに道場を開くことを夢見て日々精進を重ねておられます。

講演の中でマイケル・コンタス師範は、木刀、真剣の刀、鉄拳、鉄の扇等様々な新影流の武器を実際に留学生達に見せて解説され、本物の刀等を触ったことのない留学生達は興味津々で師範の話に聞き入っていました。講演の後は、交流会を開催し、留学生と日本人支援者との交流もテーブルのあちらこちらで賑やかに行われました。

